

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371300720		
法人名	株式会社 ライフケアみおつくし		
事業所名	グループホームみおつくし新守山 1F		
所在地	名古屋市守山区新守西2032番地		
自己評価作成日	平成28年12月16日	評価結果市町村受理日	平成29年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&Jigvosyo_Cd=2371300720-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成29年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

JR新守山駅から徒歩約10分の交通の便が良い場所にありながら、近隣の皆様のご協力のもと、利用者様の自由な生活が実現出来ています。利用者様が過ごされるホールは、大きな窓からの採光も明るく、床面積も広く取っているため、明るく広々とした印象です。利用者様同士の会話も多く、ホーム全体にのんびりとした雰囲気が漂っています。町内会のお祭りのお宿として毎年駐車場を開放しています。健康面に関しても、主治医と訪問看護が定期的に往診に来訪し、利用者様の健康状態を把握し、健康に対するアドバイスや健康管理、状態悪化時の対応を行うと共に、主治医医療機関での入院が可能という事で、ご家族にも、ご本人にも安心して頂けると考えております。また、法人全体の温泉旅行やレク等の行事など他施設との合同開催も多く、外出の機会も多いのも特徴です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは少人数の全員常勤の職員で勤務体制をつくっており、職員がチームとして利用者への支援を行っていることが特徴でもある。日常的に職員間で意見交換を行い、理念に掲げている「やすらぎ」のある生活の実現につなげている。毎月の職員会議の際には、法人代表者をはじめ、複数の役員が出席しており、職員からの意見等をホームの運営に反映させる取り組みが行われている。地域の方との交流についても、地域の役員を務めたり、認知症サポーター養成講座の取り組みが行われている。区役所や地域包括支援センターとも協力関係をつくっており、区で行われている行事や地域包括支援センターが行っている事業等にホームからも参加、協力が行われている。また、法人の関連事業所とも連携しながら、利用者の一泊旅行の取り組みを継続しており、利用者の楽しみにつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念である「やすらぎ」をホールに掲げ各職員が意識して仕事にあたるようにしている。毎月のカンファレンスの前に全員で理念を読み上げ、意識付けを行っている。また、普通の生活とは何かを常に考える様に職員に伝えている。	法人共通の理念である「やすらぎ」を基本理念としており、カンファレンスの際には、職員間で唱和しており、理念の振り返りにつなげている。また、ホーム内にも掲示しており、日常的に確認するように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に参加しており、毎年、秋祭りのお宿として場所を提供したり、各行事への参加や協賛を行っている。また、ホームの行事に地域の方の参加を呼びかけたりしている。	地域の方とも協力関係をつくりながら、町内会の役員を務めることもあり、協力関係に取り組んでいる。また、ホームで認知症サポーター養成講座を開催しており、地域の方の参加が得られている。また、小学校との交流の機会もつくられている。	ホームでは、3月よりカフェの取り組みを行う予定としており、準備を進めている段階である。ホームの取り組みが地域の方との新たな交流の機会につながることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ホームの専門性を生かし、介護に関する相談等を受けたりしている。毎年、地域の方にも声を掛け、地域包括支援センターの協力のもと、認知症養成講座を開催している。 今年度は、認知症カフェを開催する予定もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ほぼ2か月に一回の開催をしている。会議はなるべく委員の方に意見を述べて頂き、それに答える形で会議を進め、事業所の運営に取り入れるよう努力している。	会議には複数の地域の方の参加が得られており、情報交換の機会につながっている。また、会議の際には、法人の代表者をはじめ、役人も出席しており、出席者との意見交換やホームへの要望等の把握にもつなげている。	家族の出席が得られていないこともあるため、出席に向けた、ホームからの可能な範囲での働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	毎年の守山区福祉祭りやいきいき支援センター主催の催しものに利用者様と一緒に参加している。 他にも区役所や市役所へこちらから出向き、いろいろと知りたい事を教えてもらっている。	生活保護の方の受け入れが行われており、市の担当部署との情報交換等が行われている。また、区役所や地域包括支援センターとの協力関係を法人をあげて取り組んでおり、福祉施策への積極的な参加、協力が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	代表者及び職員一同は「身体拘束をしない介護」について事あるごとに確認し合い、全利用者様が安全で穏やかな生活をして頂ける考え、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。	ホームは、身体拘束を行わない方針のもと、玄関や2階の階段等に施錠を行っておらず、職員間で利用者の見守りが行われており、一緒に外に出る等の対応も行われている。また、外部、内部の研修会の機会をつくり、職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体的だけでなく精神的な虐待防止について毎月のカンファレンスの勉強会で研修や確認を行っている。また、普段より利用者様の着替えや入浴時に身体に変化がないか確認し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	在籍されている利用者様の後見人様の方にご協力いただき、指導をあおいだりして学ばせて頂き、それらを活用できる管理者、職員になるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	出来る限り細かな説明を行い、疑問点にはきちんと答え、ご理解・納得をして頂ける様に努めている。なお、必要な時には書面でご連絡を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者がご本人やご家族との会話を通し、ご意見等を聞く機会を持つようにしている。職員にもご意見が話しやすいような雰囲気作りの必要性を話し、実践してもらっている。	ホームで開催している行事の際には、家族にも案内を行っており、交流の機会をつくっている。家族からの要望等は、ホーム管理者の他、法人役員も対応する体制がつけられている。また、年4回のホーム便りの他にも、利用者に合わせた便りも作成している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	主任会議や幹部会議などの際に職員から意見や要望を聞く機会を設けており、運営に反映できるよう努めている。	ホームの職員会議の際には、法人代表者をはじめ役員も出席しており、職員からの意見等をホームの運営に反映するように取り組んでいる。また、全員が常勤職員で構成しているため、随時の職員間での意見交換が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の労働環境の改善には出来る事から取り組んでいる。賃金面の諸手当の充実や社内スキルアップ研修の修了者には手当があるなど、各スタッフが向上心を持ってスキルアップできるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月のカンファレンスの前に、30分ほど社内研修の時間を設けている。また、社外の研修にも参加機会を増やすように努めている。職員のスキルアップ研修も行って、職員ひとりひとりのレベルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	いきいき支援センターや地域主催の行事に管理者や職員に参加してもらい、交流ができる機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	特にご本人の生き立ちや生活歴を知る事に力を注いでいる。また、寄り添う時間を多く取り、ご本人の要望や想いを聞き取り、少しでも早くホームに馴染んでいただける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所時だけでなく、ご家族の来訪時や電話などで不安や困っている事を聞き取り、介護に対する思いをご家族と共有できるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所当初はもちろんのこと、入居後に状況変化があるごとに、ご家族やご本人と話し合い、必要な援助を行うようにしている。また、職員間でも検討し共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	代表者や管理者は職員にご本人との会話の重要性や一方的な介護にならないよう伝えており、職員も利用者様に寄り添った介護ができるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	管理者は、遠方のご家族にははがきや手紙で近況をお伝えしたり、電話連絡を入れたりしており、職員も来訪時にご本人の近況をお伝えし、ご家族とご本人との距離を短くするように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人の知人の方や、ご近所の方にも来訪して頂くようご家族に話している。また、以前の住み慣れた町へお連れしたり、よく行っていたお店などにも出向き、当時の話などをして頂いている。	利用者により、友人、知人がホームに訪問したり、行きつけの美容院を継続している方もいる。ホームでも利用者の住み慣れた場所へ外出する等の取り組みが行われている。また、家族と自宅に戻り、一緒に過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が間に入り、会話やレク等をする事により、各利用者様同士の関係構築に努めている。また、合同レクをする事により、2つのフロアーの利用者様同士の関係も出来ており、利用者様が孤立しないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご家族には入所先が決まるまで気軽に相談や訪問をしていただくように伝えたり、心当たりのある施設の紹介援助を行い、いつでも相談に応じる旨を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介護の仕事は特にコミュニケーションが重要だと考えており、新人職員に限らず各職員には声掛けを重点的に行うように伝えており、ご本人だけでなく、ご家族の意向も把握するように努めている。	職員全員が常勤でもあるため、全員で利用者に関する気付き等を共有する取り組みが行われている。毎月のカンファレンスの際には、利用者全員の検討が行われており、センター方式の様式も活用したアセスメントにも反映され、利用者の把握につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	管理者は、アセスメントを職員が自由に閲覧できるようにしている。また、職員も普段の会話を通し、生活歴などをお聞きし、把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の申し送りをはじめ、カンファレンスなどで職員間の情報共有を密にするようにして、利用者様の想いやご家族の想いを聞き、現状維持に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のカンファレンスを基に計画を立てる様にしている。計画立案時にはご本人の意見やご家族に電話で現状をご説明し、要望をお聞きしたりしている。	介護計画は6か月で見直されているが、毎月のカンファレンスを通じたモニタリングが行われていることで、変化に合わせた見直しも行われている。また、カンファレンス等で介護計画の内容を共有しながら、日常の支援につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者様個々の介護記録に状態や記録をつけており、また、体調管理ノートを作成し、体調の思わしくない時はそのノートに書き込むことで、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	職員には臨機応変の対応が重要な事を説明し、理解をしてもらえるように話している。職員も柔軟な対応が出来る様に努力してくれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会や民生委員さん達との関係強化に努める事で良好な関係が築けている。また、社会福祉協議会や地域包括支援センター等との関係作りに努めており、職員にも出来るだけ参加をしてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族とご本人に説明し、了解を得たうえでホームの主治医に月2～3回往診してもらっている。緊急時にはすぐに、主治医病院の専門医に診ていただいている。	ホーム協力医とは柔軟な関係をつくっており、定期的に行われている訪問診療の他にも、利用者に合わせた随時の対応も可能な関係がつくられている。また、週1回の訪問看護が行われており、利用者の健康チェックと医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職員は利用者様の様子を申し送り等で共有しており、毎週ホームと契約している訪問看護STより看護師が来訪した際に、情報提供や相談を行っている。また、状態の思わしくないご利用者様の情報を主治医に連絡してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医医療機関での入院が可能となり、普段の主治医往診時より利用者様の状態を把握していただく事で、施設での生活が出来る状態になったら早期に退院して頂き、認知症の進行を最小限にできるよう働きかけを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時や機会があるごとに方針を説明し、理解を得る様にしている。重度化した時は、主治医よりご家族に状態説明と今後の方針を話し合う機会を設けている。職員にも重度化した時の対処等を機会のある時に話している。	利用者の身体状態に合わせながら支援可能な取り組みが行われており、過去にはホームでの看取り支援も行われている。医療面での連携を深めながら、家族とも話し合いの機会がつくられている。また、ターミナルに関する職員研修の機会もつくられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	利用者様の急変や災害時を想定した緊急救命訓練や応急手当、AEDの使い方の訓練などを消防署に依頼する事を定期的に行い、実践できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	日中はもちろん夜間想定訓練を行っている。自主防災計画書を作成し、町内会にも組み込んでもらっている。消防署からも非難誘導に対する助言をもらっており、職員にも伝えている。	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練や通報装置の確認等が行われている。訓練の際には、消防署の協力も得られており、助言等につながっている。また、ホーム内に、水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	ホームは、水害のリスクの高い地域でもあるため、水害を想定した訓練の実施や地域の方との協力関係等、ホームの継続した取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	カンファレンス前に全員で理念を読み上げ、意識付けを行っている。人格の尊重やプライバシー等を損ねない声掛けを行えるよう職員に伝え、職員も共有しそのような対応を心がけている。	理念の中に利用者の尊厳を重視することを掲げており、職員間で唱和をすることも含めて、日常的に振り返るよう取り組んでいる。また、法人で接遇面に関する研修会の機会をつくっている他、日常的な注意喚起等の取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者様本人が選択できるような問いかけや場面をなるべく多く作り出すよう、各職員が働きかけ、知り得た思いや希望には、出来る限り実行に繋げるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様がどのように生活されたいかを中心にして、介護者側の都合を優先させないよう出来る限り、ご利用者様個人のペースに合わせて過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者様の要望に沿った身だしなみやおしゃれができるように支援している。 例えば、利用者様と一緒に服や化粧品を買いに行き、選んでいただいたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立はご利用者様の希望をお聞きしたり、当日有るものを職員と利用者様で調理を行っている。片付けも利用者様に協力いただいている。	メニューをその日に考えており、利用者の好みや嗜好にも配慮している。利用者も買い物、調理、片付け等、出来ることに参加している。おやつ作りや季節等に合わせた行事食も行われている。また、食事の際には、職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ご本人の状態に合わせた食事をご提供しているが、他の利用者様との見た目の差がないように努め、声掛けや気配りをして一人、一人への支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後ご自分で出来る利用者様には声掛けや見守りを行い、出来ない方にも職員が介助でケアを行っている。時には、訪問歯科医に相談や指導を行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	自立への向上心を大切にし、利用者様の排泄パターンを職員間で共有し、なるべくトイレでの排泄ができるよう援助している。また、夜間オムツ使用の方も日中はトイレでの排泄を心掛けている。	利用者一人ひとりに合わせた排泄に関する記録を残しており、日常的な職員間での申し送りやカンファレンス等を通じて、情報を共有するように取り組んでいる。また、法人でオムツに関する講習会を行っており、適切な排泄支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	利用者様の排便パターンを職員間で共有し、食事や水分、運動等でなるべく自然排便が出来るように支援し、なるべく下剤に頼らない便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	基本的に毎日行っている。利用者様のご希望があれば、毎日入浴していただき、希望の時間帯に入浴していただいている。	毎日の入浴の準備が行われており、利用者に合わせて対応が行われており、利用者の中には2時間入浴している方もいる。身体状態に合わせて職員複数での対応も行われている。また、季節に合わせて柚子湯、菖蒲湯等も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者様の不安を解消したり、日中に身体を動かしていただいたりして、安定した睡眠をとっていただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方薬のリストを利用者様ごとにファイルし、服薬の目的や副作用を各職員が把握しやすいようにしている。任せて、症状の変化に注意して、健康維持に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食事作りや洗濯物干し、たたみ、掃除等利用者様に役割を持って頂き、頼りにされていると思って頂けるよう、また、外に行く機会を増やし気分転換に繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	買物やドライブ等、外出の機会を増やし、利用者様一人一人のペースに合わせて戸外に出掛けている。また、昨年9月には全事業所合同での一泊旅行を開催した。	日常的に散歩や買い物等への外出支援が行われている他、定期的に外食の取り組みも行われている。利用者の意向に合わせて随時の外出支援も行われている。また、法人の関連ホームと連携した一泊旅行の取り組みも行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	当ホームでは基本的に金銭の個人所持は控えていただいている。ただし、利用者様の安心につながるのであれば、ご家族と相談のうえ、少額をお持ちいただいている。買物時にご本人の買物をされた時に使って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人から依頼があったり、ご家族から電話があった時には、出て頂いたりしている。また、手紙やはがきのやり取りもしていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	極力華美な飾り付けをせず、行事の写真や習字、利用者様の作品を中心に飾り付けをしている。利用者様が混乱をきたさない事を配慮し、落ち着いた雰囲気を作るように職員は考えている。	ホーム内はゆったりとした広さが確保されており、採光にも優れた環境となっている。また、季節に合わせた飾り付けや利用者様の作品が多く飾られており、作品の掲示を通じて、利用者を知る機会にもつながっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	両フロアとも食卓以外にソファや椅子を設置しており、利用者様は自由に好きな場所となるべくのんびりと過ごして頂けるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、使い慣れた家具やお位牌、ご利用者様にとって大切な物を居室内に置いて頂き、少しでも居心地よく過ごして頂けるような配慮をしている。	居室のベッドが備え付けとなっており、利用者により、家具類の持ち込みをはじめ、家族の写真を飾ったり、化粧品等も置かれてある。その一方で、シンプルな雰囲気の方もおり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室の表札や、トイレの案内を掲げ、なるべくわかりやすいようにしている。センサーライトを設置して、夜間でも歩きやすいようにしたりして、安全で自立した生活を送って頂けるように支援している。		